

P-145 Gn-RH agonist療法中の副作用対策としてのadd back therapyの血中各種ホルモン動態および子宮内膜組織像に及ぼす影響

帝京大市原病院、帝京大*、賛育会病院**
合阪幸三、堤坂敏昭、梁 善光、三橋洋一、
森岡弘充、渡邊剛也、富田雅子、西平正之、
貝原 学、森 宏之*、吉田浩介**

〔目的〕長期間Gn-RH agonistを用いた場合、副作用としての卵巣欠落症状がしばしば問題となる。その対策として、各種薬剤によるadd back therapyが施行されているが、その効果を総合的に検討した。〔方法〕Gn-RH agonist療法時にadd back therapyを行った75例を、A：ソフィアA(1~2tab/day)の投与を行った群(40例)、B：ブレマリン(1~2 tab/day)の投与を行った群(35例)に分類した。これらについて、卵巣欠落症状(0~3の4段階で評価)、血中各種ホルモン動態および子宮内膜組織像について検討した。

〔成績〕①卵巣欠落症状(Hot flush)は、Gn-RH agonist投与4週間後で 2.2 ± 0.8 、8週間後で 2.8 ± 0.5 と早期より出現していたが、add back therapyにより治療開始4週間後にA： 1.3 ± 0.8 、B： 1.4 ± 0.7 といずれも有意に改善された($p < 0.01$)。子宮内膜症の諸症状には著変は認められなかった。(2)血中estradiol値は、投与開始前→6週間後→add back therapy開始6週間後でA群： $195.6 \pm 87.3 \rightarrow 10.3 \pm 1.4 \rightarrow 11.4 \pm 2.3$ 、B群： $202.4 \pm 76.4 \rightarrow 10.9 \pm 2. \rightarrow 12.3 \pm 3.0 \text{pg/ml}$ とadd back therapyによる著明な変化はなかったが、血中estrone値はA群： $137.4 \pm 71.8 \rightarrow 30.5 \pm 7.7 \rightarrow 42.6 \pm 10.5$ 、B群： $142.6 \pm 76.0 \rightarrow 28.4 \pm 6.3 \rightarrow 48.5 \pm 11.5 \text{pg/ml}$ と、いずれもadd back therapyにより有意に上昇していた($p < 0.01$)。③子宮内膜組織診では、A群ではatypismのない萎縮したsecretory phaseを示したが、B群ではirregular ripeningを伴ったatypical secretory phaseを示す症例がほとんどであった。〔結論〕Add back therapyはEP製剤を用いた方が子宮内膜組織像から安全であることが明らかとなった。

P-146 乳癌術後のtamoxifen投与が女性性器に与える影響

癌研*、三楽病院**、至誠会第二病院***
杉山裕子*、片瀬功芳*、手島英雄**、横須賀
薫***、山内一弘*、荷見勝彦*

〔目的〕tamoxifen(TAM)は抗エストロゲン剤として乳癌術後の内分泌療法に使用されている。TAMの女性性器に対する作用について検討した。〔方法〕1985年から1990年に乳癌の手術を受けた、閉経後婦人(閉経後平均6.2年)111例(TAM内服群56例、TAM非内服群55例)を対象とした。内服群で、自覚症状、子宮内腔の長さ、子宮内膜肥厚、膈上皮maturation index(M.I.)値の変化を内服前、中、後で経時的に検討した。またTAM非内服群についても同様に検討した。さらに合併病変として子宮筋腫、子宮内膜増殖病変、子宮体癌、卵巣腫瘍についても検討した。一部の症例でTAM内服前後の E_2 , LH, FSHの変化について検討した。〔成績〕TAM内服群、非内服群で背景因子に差は認めなかった。TAMは1日20から40mg(平均29mg)で、2ヶ月から10年間(平均979日)使用された。内服群では内服中に不正出血、子宮内腔の長さの増大、膈上皮M.I.値右方移動の頻度が非内服群に比べて有意に高かった。子宮内膜の肥厚性の変化は非内服群で1例だったのに対して、内服群で8例にみられ有意に頻度が高かった。子宮筋腫の合併は両群間に有意差を認めなかったが、内服群で子宮内膜ポリープ1例、子宮内膜増殖症1例、子宮体癌1例、卵巣囊腫4例認めた。非内服群では卵巣囊腫を2例に認めた。TAM内服中は E_2 の低下と共に、LH, FSHが抑制される傾向を認めた。〔結論〕TAM投与は内分泌学的にみると、標的臓器により作用が異なる可能性がある。女性性器に対してはエストロゲン効果が認められた。したがってTAM内服中は内服後も含めて女性性器の経過観察を十分する必要がある。